



二編

~13  
3848  
2



鶴亭秀賀作

金杉  
奇譚

歌川國周画

~13  
3848  
1





歌川國周画

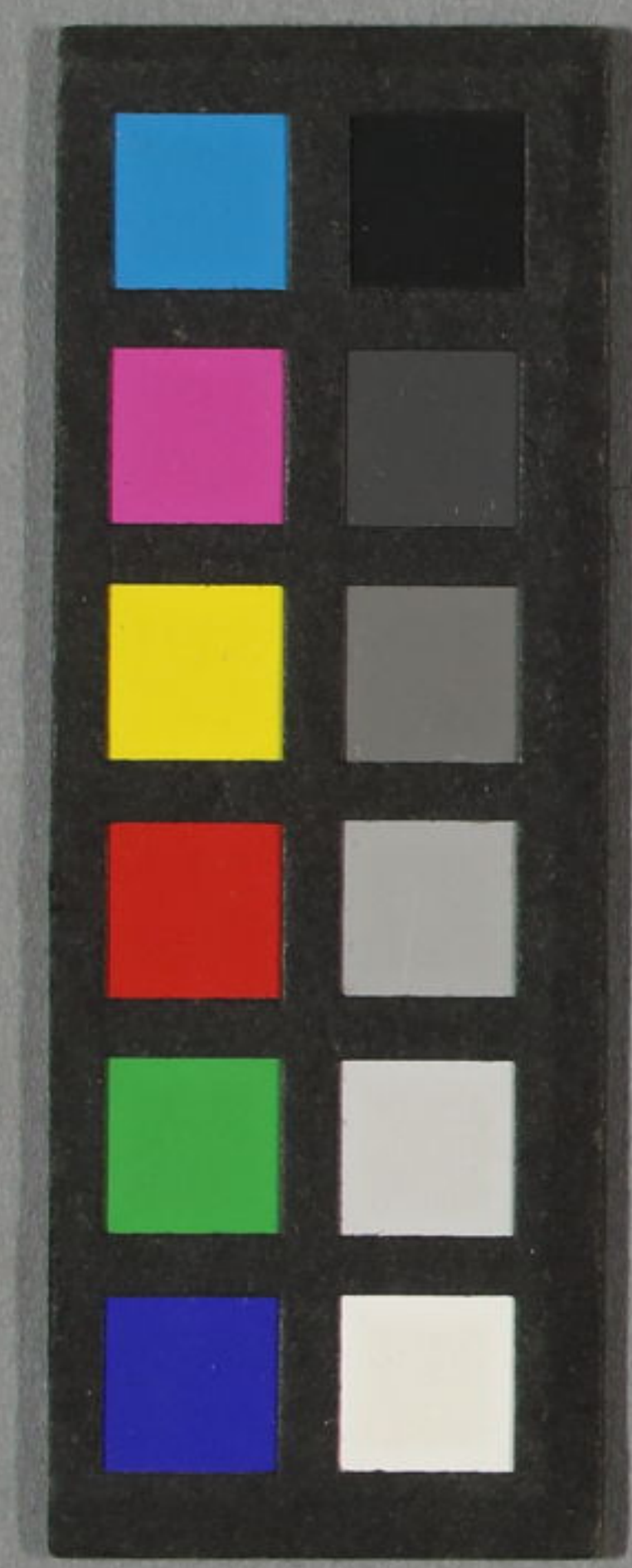
美津加賀見

鶴亭秀賀作

金杉半  
壽梓



~13  
3848  
1





門へ13  
3848  
1

水鏡山鳥奇譚初編換序

金太郎

金太郎



水鏡山鳥奇譚初編換序

天地の大戯場あり。萬物僉小戯場成べし。予粵一の戯場あり。坐元を  
梓元といふ。立物を禪史とま本舞臺三間あり。其合して四冊を規矩とま。  
樂屋不則作者の腰の皮彼を殺し是を活まの役割まれ。画工が毫ふ  
振付也。此書を配る花道。因櫻の木。み登せと價ハット引船の高  
上。面あり。あ片計り。まども藝云。あ身を入。綴令魂魄の如く。跡ハ引とも。  
是耐火の如く立消のま。緯多く一切引馬の声色を用。まとい。虽蛇も  
編初日の幕明。大切の大團圓。下座の太鼓と鳴渡り。永當々  
の御評判の程。偏奉願候

元洛二龍集乙丑  
孟陳開鑄

鶴亭秀賀戲記





老母越路  
渡邊左門

渡邊左門  
妻藻塩



異人味詳





潜竜一子  
重太郎

白須賀の浪人  
就鳥塚潜龍



時方の娘山鳥  
実太郎時員  
名よ 女牛若と渾

安房国天津の長者  
渡鳥左門時方

山鳥

























































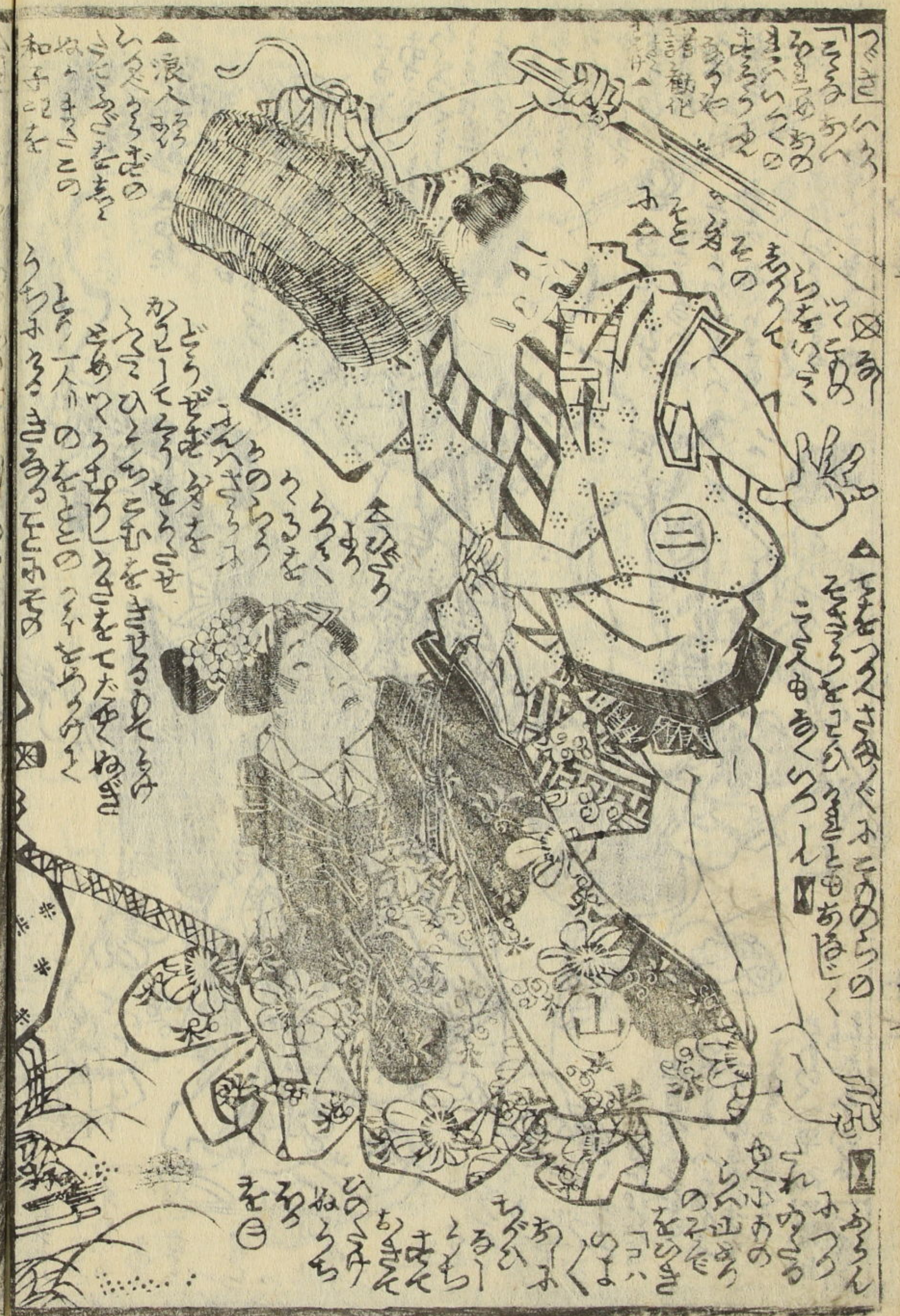




天津濱の長者の長子の浪人形

浪人形  
いざうらぎの  
おとこの  
和子記を

うらぎの長者の長子の浪人形  
浪人形  
いざうらぎの  
おとこの  
和子記を



浪人形  
いざうらぎの  
おとこの  
和子記を

浪人形  
いざうらぎの  
おとこの  
和子記を

浪人形  
いざうらぎの  
おとこの  
和子記を





あはれやうのついで  
 こゝろあやうのうらた  
 わるそのうちらふ  
 浪人あはれは  
 おまうあはれ  
 鯉をのろ  
 ひきつ  
 あはれ  
 ひきつ  
 あはれ

△時方  
 少年あはれ  
 少婦あはれ  
 婦人あはれ  
 少年あはれ  
 少婦あはれ  
 婦人あはれ

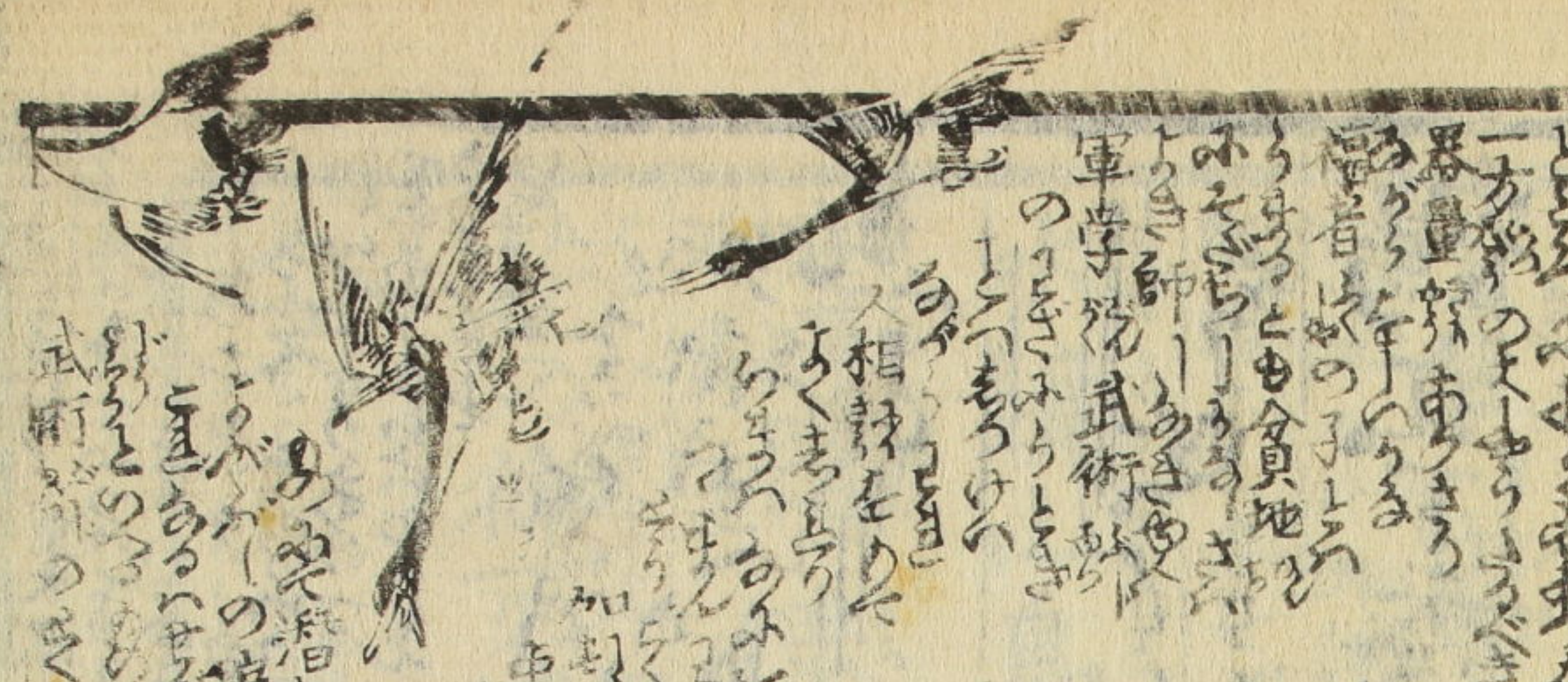


あはれやうのついで  
 こゝろあやうのうらた  
 わるそのうちらふ  
 浪人あはれは  
 おまうあはれ  
 鯉をのろ  
 ひきつ  
 あはれ  
 ひきつ  
 あはれ

△時方  
 少年あはれ  
 少婦あはれ  
 婦人あはれ  
 少年あはれ  
 少婦あはれ  
 婦人あはれ

あはれやうのついで  
 こゝろあやうのうらた  
 わるそのうちらふ  
 浪人あはれは  
 おまうあはれ  
 鯉をのろ  
 ひきつ  
 あはれ  
 ひきつ  
 あはれ





Handwritten Japanese text surrounding the illustration on the left page, including names like '重太郎' and '山'.



Handwritten Japanese text surrounding the illustration on the right page, including names like '重太郎' and '山'.



重太郎の...  
 川中へ入ると...  
 梅蝶...  
 高賢をねがふ...



鶴亭秀賀作の  
 一炊鳥齋國周画  
 出

金華七變化  
 十七編  
 梅蝶樓 秀賀著作  
 國貞出

右、殊の外御評判宜しく...  
 作者画工一世一代の新案...  
 新工夫をこらして...  
 彫摺ホも念を入り古今の美本と倣...  
 看官競て高賢をねがふ...

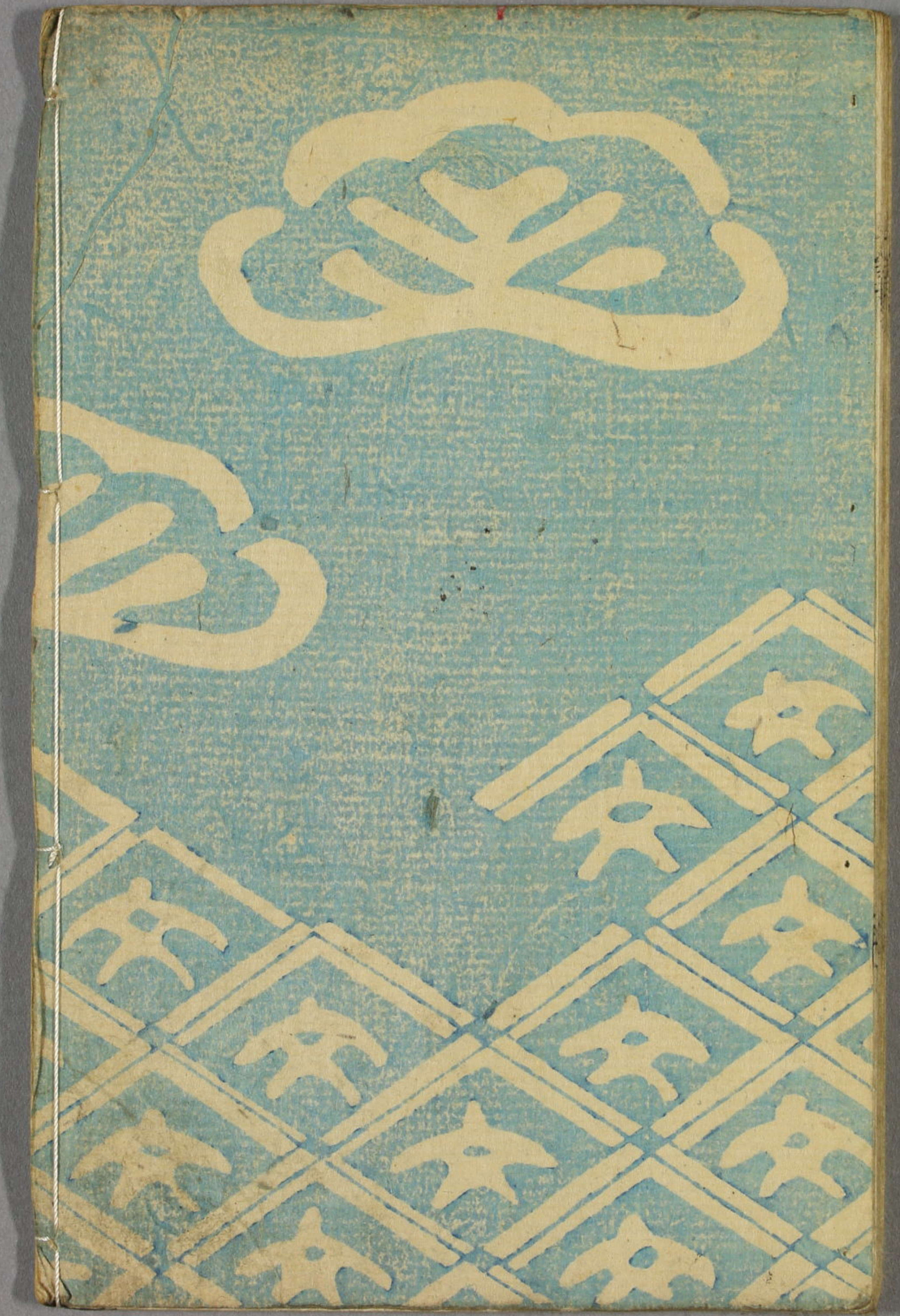
水鏡山鳥奇談  
 四編 秀賀作  
 五編 國周画  
 水製子油  
 繪紙  
 武藏屋勝之助

蓬萊嶋臺  
 傀儡師  
 三編 魯文作  
 四編 國綱画  
 肝要の業之奴物...  
 形を付て...  
 のりを出り妻...

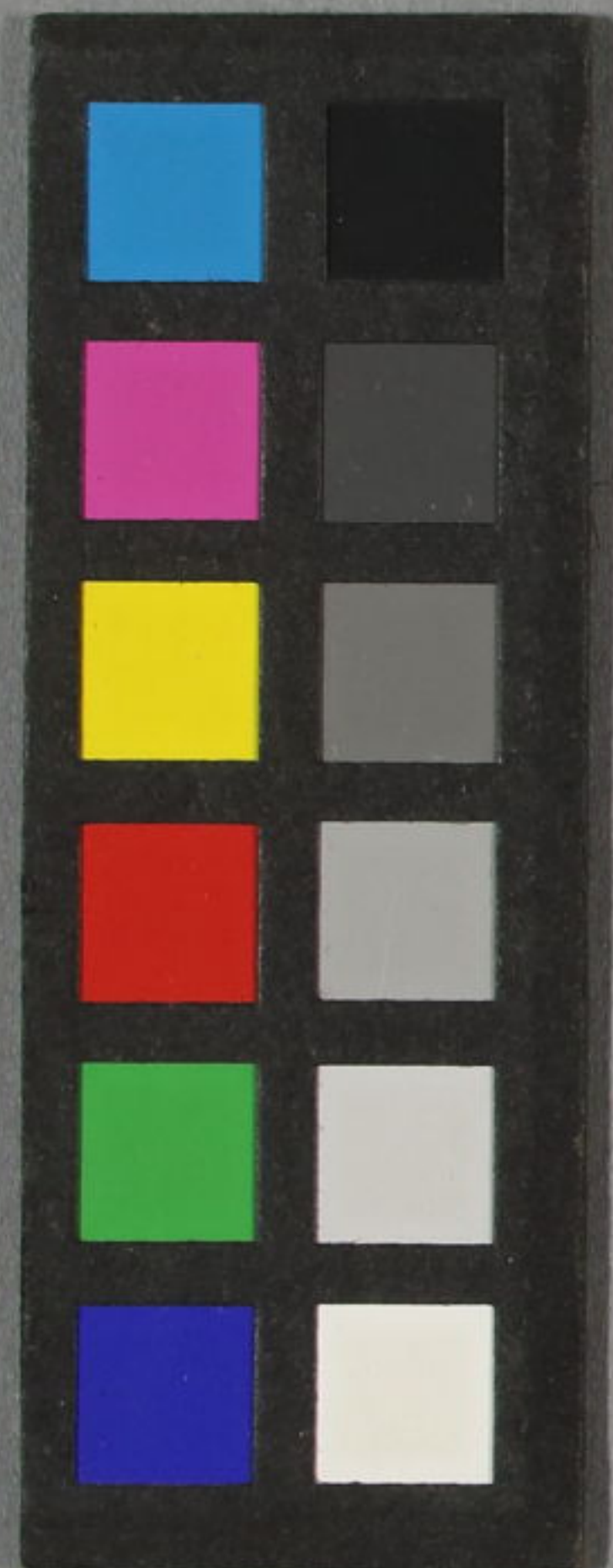
花の御所九重日記  
 初編 秀賀作  
 追々 國貞画

文 地本雙紙問屋 金松堂  
 横山町三丁目  
 辻岡屋文助梓









二船

~13  
3848  
2





所へ 13  
 3848  
 卷 2

水鏡

山鳥

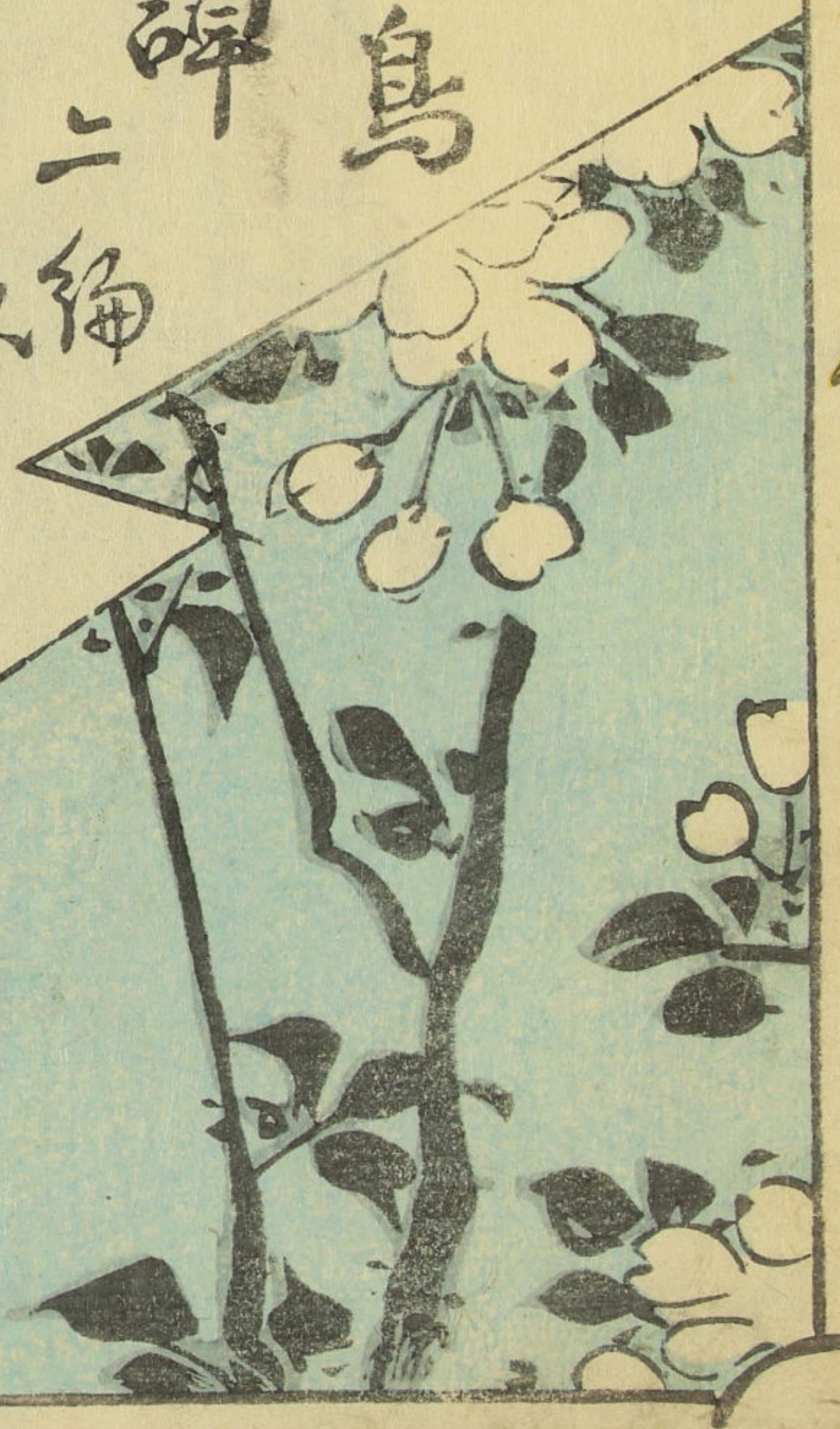
奇譚

二編 下

一編 上

新編 水鏡

水鏡



織文の豪華  
 姿の却つて見  
 唯新形の針目  
 幾衣の針目の

換序文  
 雅文の公服より遠く不及と雖竈の前は柄襦  
 憎し去迎有来一染模様入愈見飽て在るは  
 心を専一と織出せと楹樓みぐるも錦と言ふ不叶何  
 多き洗濯物の名ハ通まき下を如何みせん

元治元龍集五限月

鶴亭秀賀記



山鳥二





楠の  
舊臣  
就塚重  
右衛門元賢

正行朝臣の孫女  
弥生御前  
就塚の  
實八楠



天津の長者  
渡邊左門  
時方

左門  
一子女  
若山鳥右

天津の  
大郷  
時員





道入實者  
 菊池武重の臣  
 小森當意軒  
 異人  
 金魚



李頼大赤  
 膳橋

山鳥二  
 實者山名氏清の臣

再出  
 女牛若の山鳥



















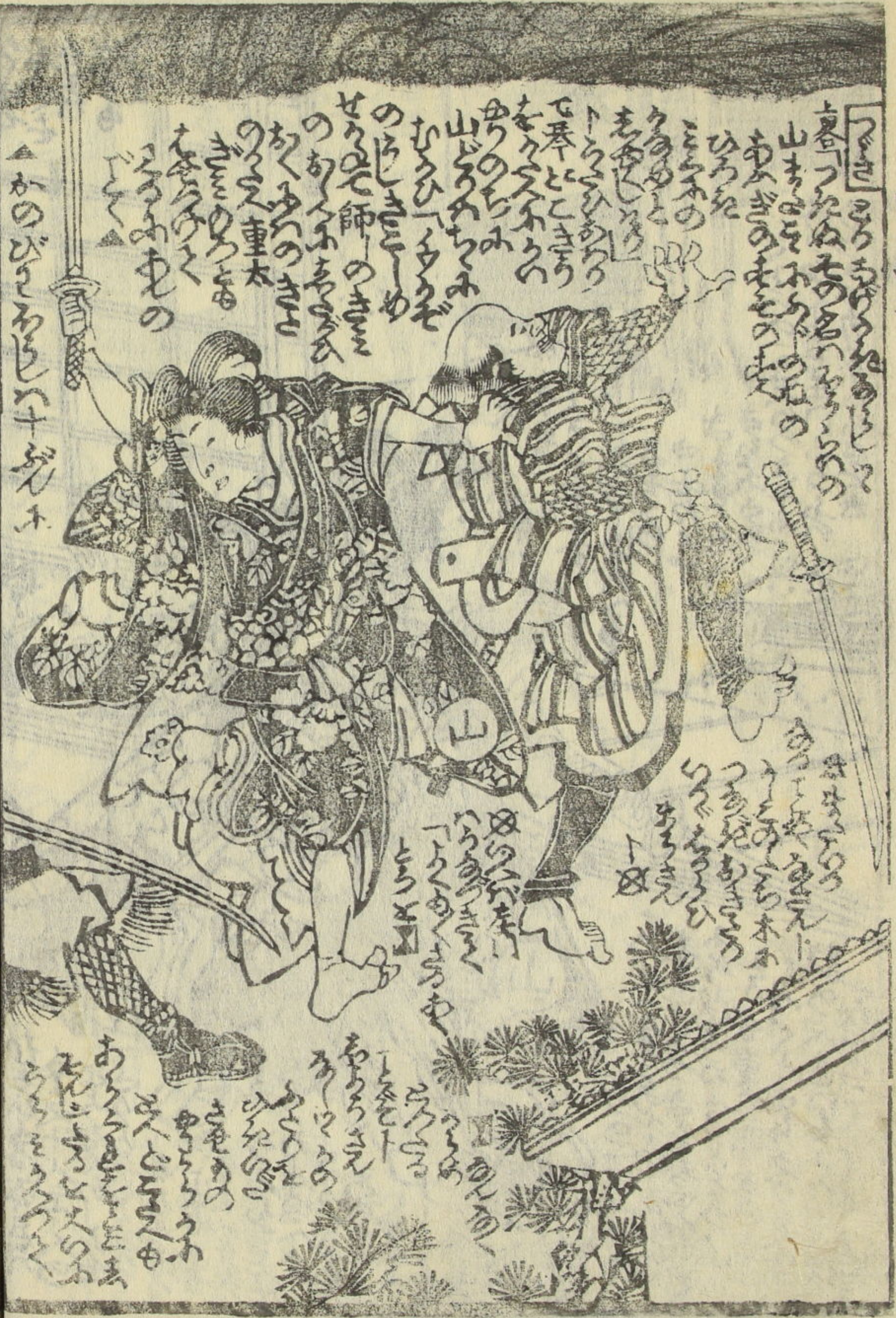






しんせう

乙



しんせう



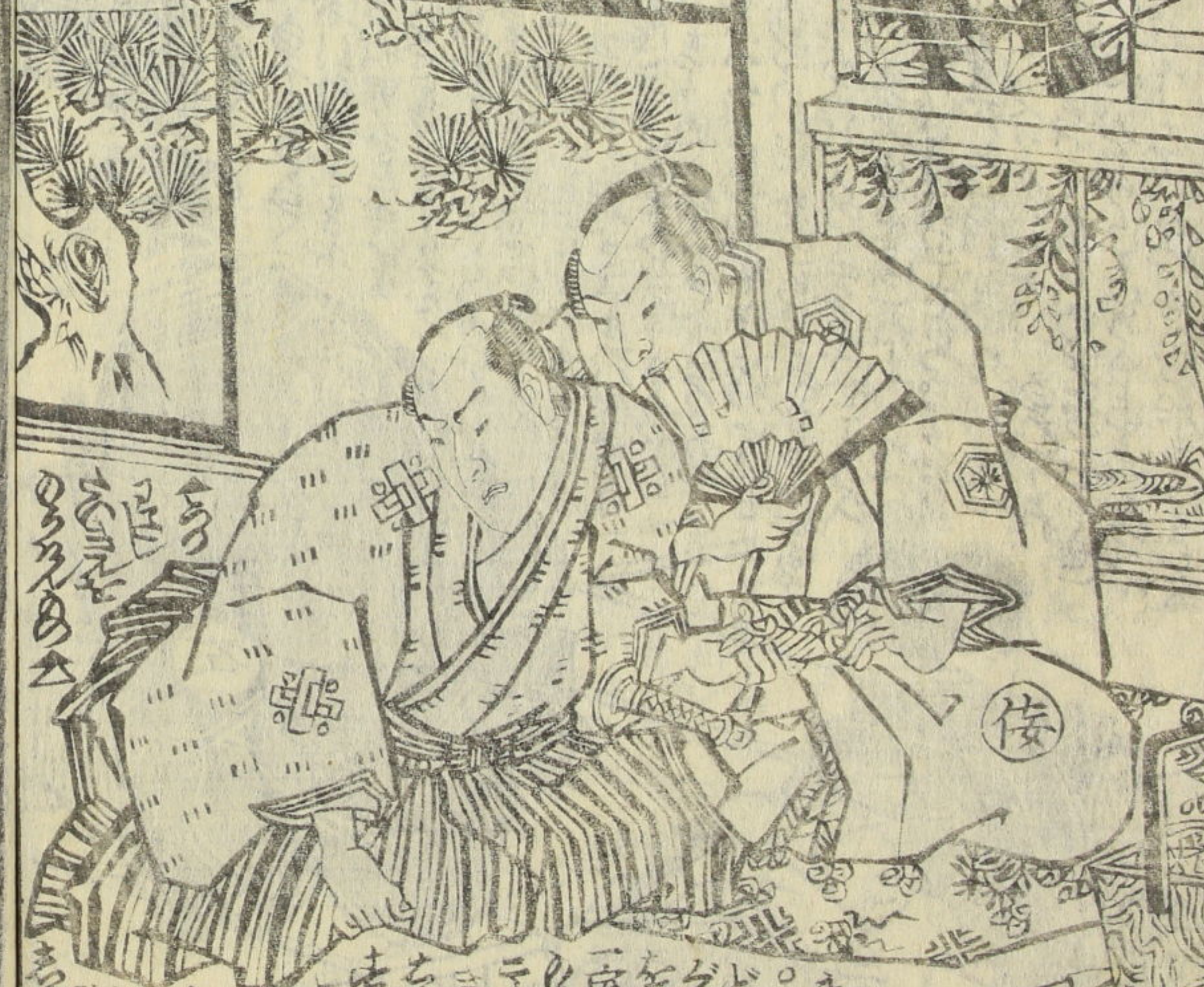




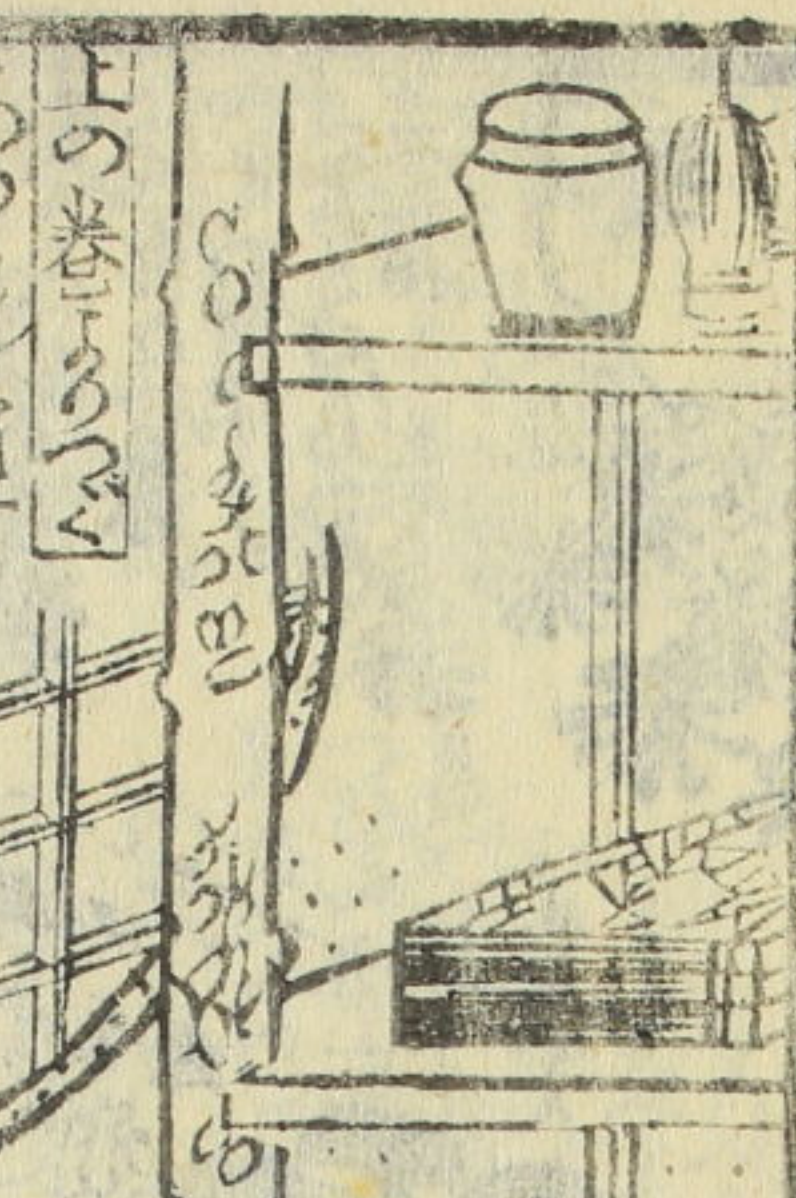
# 秀賀作

重太郎の両人あつちあつち  
 遊のなつかしきあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち

# 國周画



重太郎の両人あつちあつち  
 遊のなつかしきあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち



上の巻の...  
 重太郎の両人あつちあつち  
 遊のなつかしきあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち



重太郎の両人あつちあつち  
 遊のなつかしきあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち  
 左門あつちあつちあつちあつち  
 山太郎あつちあつちあつちあつち  
 重太郎あつちあつちあつちあつち





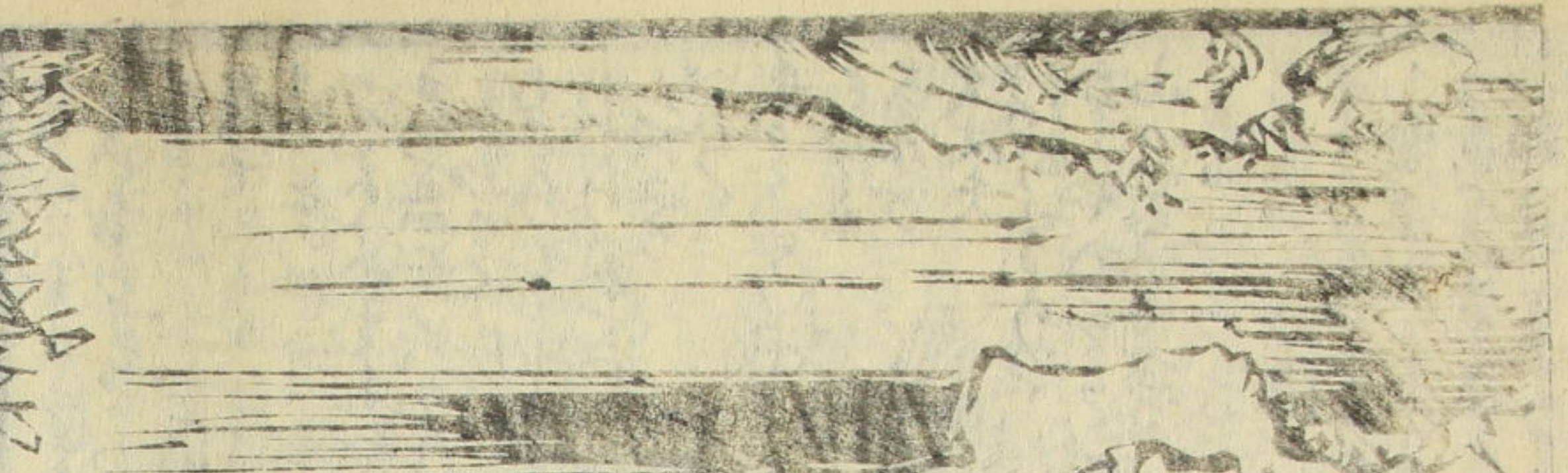








Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, arranged in vertical columns. The text is densely packed and covers the lower half of the page. Some characters are larger and more prominent than others, possibly serving as section markers or emphasis. The ink varies in density, creating a sense of depth and texture.



Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, arranged in vertical columns. The text is densely packed and covers the lower half of the page. Some characters are larger and more prominent than others, possibly serving as section markers or emphasis. The ink varies in density, creating a sense of depth and texture.





















山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の

山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の



山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の

山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の  
山崎の







